

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 鹿児島県 】

学校名【 枕崎市立枕崎小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	6年児童66人（体育館にて講演を拝聴・車椅子テニスの体験） 4～5年児童129人（教室にて講演をオンライン視聴）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 学活 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ オリンピック・パラリンピックへの理解を深める。 ○ 夢や希望を持つことや努力することの大切さを知り、生活に生かそうとする態度を養う。 ○ 車椅子テニスの体験をし、スポーツを楽しもうとする心を育てる。
5 取組内容	○ 全校朝会でオリンピックに関する話を紹介 ○ 体育館壁面にオリンピックやパラリンピックに関する資料を掲示 ○ NHKforSchool「ブレーカーズ」視聴 ○ 二條実穂氏講演・車椅子テニス体験 リオデジャネイロパラリンピック車椅子ダブルスで4位に入賞した二條実穂氏を招き講演を行った。当初は6年生だけ聴講予定だったが、できるだけ多くの児童に聞いてほしいという思いがあり、4年生以上の学級をオンラインで結び聴講することにした。前半（35分間）は二條氏による講演会を開催し、パラスポーツを始めたきっかけや競技用車椅子と一般の車椅子の違いなどをお話していただいた。後半（55分間）は、6年生全員が競技用車椅子の乗車体験をしたり、代表児童が二條氏の投げたテニスボールを打ち返す体験をしたりした。終了後講演会の感想を記入した。

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの児童が、二條さんが講演の中でおっしゃった「好きを大切に」「夢を宣言する」「無理と言わない」というメッセージが心に響いたという感想を記入していた。中学校進学を前に改めて自分の夢を見つめ直し、進学先を考えるきっかけとなった児童もいた。 ○ 実施前は「夢は特に無い」「あったとしても恥ずかしいから言いたくない」と話す児童もいたが、夢を持ち、宣言して、諦めずに努力を続ける大切さを多くの児童が感じることができ、改めて卒業文集などで多くの児童が夢を公言することができた。 ○ 競技用車椅子に乗ることが全員初めてだった。多くの児童が乗る前は簡単そうというイメージを持っていたが、実際に乗車してみるとコントロールがとても難しく、悪戦苦闘していた。さらにラケットを持ってターンを繰り返しながらボールを打ち返す二條さんの様子を見て、とても感心していた。パラリンピックへの興味も高まった。 (児童感想より) <ul style="list-style-type: none"> ・ 今夢を持っているので、その夢が叶うように二條さんに教えてもらったことをしてみようと思いました。 ・ 二條さんの話を聞いて、自分の夢を宣言して絶対無理とは言わず前を向いていきたいと思いました。お話が聞けて本当に良かったです。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年児童だけでなく、他学年でも貴重な講演を聴けるようにオンラインで結び、聴講できた。 ○ 二條氏との打ち合わせをオンラインで行い、打ち合わせをスムーズに細かく行うことができた。 ○ 講演を聴くだけでなく、実際に競技用車椅子に乗ることができたので、子どもたちの興味・関心が高まった。

<p>8 主な課題等</p>	<p>○ 各教室と体育館をオンラインで結ぶ際に、機器の接続に時間がかかった。感染症対策がなければ、直にお話を聞いたり、体験をもっと多くの子どもたちと共有できたりできたかと思うと残念であった。</p>
<p>9 来年度以降の 実施予定</p>	<p>○ 二條さんのお話を今後の日々の学習や生活の中で実践できるよう機会をとらえ指導していく。色紙や活動の写真なども掲示するなど活用していく。</p>